

遠隔でオンライン研修を開始

横浜ウォーター 地域の人材育成に

横浜ウォーターは新型コロナウイルスの感染拡大の影響から実施を見合わせていた水道技術研修について、オンラインによる遠隔研修のプログラムを提供することとし、7月1日から申込みを開始する。

同社では、横浜市水道局の施設を活用した研修事業を毎年度実施し、全国の水道事業者等から研修者を受け入れてきたが、今年度はコロナ禍の影響から春期研修の開催が困難となっていた。改正水道法を受けた人材育成へのニーズの高まりもあり、事業者等からの要望や問い合わせを受け、オンラインによる実施を決めた。

オンライン研修は、例年受講者の多い、水道工事施工監理、給水装置・水運用の3講座を対象に実施する。水道工事施工監理研修は、4講義（技術者倫理、工事完成検査、施工計画書、施工監理）、給水装置研修は5講義（総論、事故事例、計画論、施工、給水管・給水用具）、水運用は9講義（水道施設構成、配水方式、断水操作、充水・耐圧試験、洗浄、消防水利、弁バルブ操作、事故事例など）で構成する。

講師は、横浜市水道局での現場経験、同社が展開する国内支援事業での地方業務の経験を豊富に有する同社所属の熟練技術者が担当。

研修はYouTubeを利用して実施。8月25～28日または9月2、3日の指定時間（9～17時の間）に配信する。申込み者には、研修テキストと閲覧方法が送られる。受講後の質問受付、必要に応じたフォローアップも提供する。

受講対象は給水人口が50万人以下の事業者職員を主とするが、民間企業等の職員も受講可能。利用料金は事業体規模、企業規模別に設定しており、3講座セットでの割引価格も用意する。

また、各地域や団体等の課題、要望に応じてオーダーメイドによるオンライン研修の相談も受け付ける。研修の詳細、申込方法は横浜ウォーターHPを参照。

日本水道新聞

2020（令和2年）年6月29日（月曜日）



鈴木社長

横浜ウォーター

社長に鈴木氏

横浜ウォーターは、24日に開いた株主総会および取締役会で同日付で鈴木

木慎哉取締役を新社長とする人事を決めた。

鈴木社長は、プラントメーカー、金融機関での勤務を経て、平成24年8月に横浜ウォーターに営業部長として入社。26年に取締役に就き、同社の事業拡大を進めてきた。社長就任に当たり「国内外において横浜市が培った確かな上下水道事業

運営ノウハウを生かし、現場に真摯に向き合い、自治体・企業等とのパートナーシップを推進するとともに、マーケティングとイノベーションを進め、持続的かつ創造性豊かな「横浜ウォーターならではの」の上下水道事業サービスを提供していきたい」とコメントしている。

日本水道新聞

2020（令和2年）年6月29日（月曜日）